

【主題】 『考え・学ぶ』『伝え合い・創造する』生徒の育成

【副題】 ～ 課題や教材の提示を工夫した道徳科の授業づくりを通して ～

【新潟市立岡方中学校】

【校長： 小泉 浩彰】

1 主題設定の理由

(1) 生徒の実態から

岡方中学校は全学年単学級であり、ほとんどの生徒が保育園、小学校から同じ集団で過ごしてきている。そのため、安定した人間関係の中で過ごせる良さはあるが、その反面、主体性、粘り強さが育まれにくい環境でもある。授業においても、自分の考えをもち、その場で意見を述べることに苦手意識をもち、人に合わせて動こうとする傾向が強い。

近年、人工知能の発達など、急速な技術革新によって社会は大きく変化している。これからの社会で活躍していくためには、様々な変化に対し、受け身ではなく、主体的に考えようとする姿勢が大切だと考える。

そのために、「対話的な学び」を取り入れた学習体制を整え、生徒同士が必然性をもって関わり合うことで、「考え・学ぶ」「伝え合い・創造する」生徒を育成したいと考えている。

(2) これまでの研修から

令和4年度は「考え・学ぶ生徒の育成 ～互いに学び合い高め合う授業づくり～」を研究主題とし、ICT 機器を活用した学び合いから学んだ内容をアウトプットする授業を目指して研修を行った。その結果、ICT 機器を活用した学び合いとアウトプットの機会設定への教職員の意識が高まった。

一方で、「ICT を効果的に授業の中で取り入れる方法が分からない」「各教科1名のため授業の手立などを検討しづらい」「いじめへの対策として道徳に力を入れてもよいのでは」などの声が聞かれるようになった。

(3) 指導の在り方から

職員は、授業改善の意識が高く、令和4年度の学校評価アンケートの結果から、普段の授業で「学習課題」

【令和4年度 学校評価アンケート集計結果(生徒用)】

評価項目・評価内容	評価結果(前年比)
教科(道徳・社会・数学・理科・英語)の平均的授業がよくわかる	肯定的評価 8.9%→8.7%
教科(音楽・美術・体育・家庭科)の平均的授業が好き	肯定的評価 7.7%→7.7%
道徳の勉強が好き★	肯定的評価 7.6%→6.9%
授業で進んで発言する。★	肯定的評価 4.6%→3.6%
ペアやグループの活動が好き	肯定的評価 8.3%→7.9%
自分の授業で「学習課題」が示されている	肯定的評価 9.9%→9.8%
自分の授業で学習内容の「まとめ」がある	肯定的評価 9.5%→9.6%
自分の授業が終わりに振り返る活動を行っている	肯定的評価 9.4%→9.6%
授業で友達同士で話し合う活動を行っている	肯定的評価 9.2%→9.6%
授業で自分の考えを発表する機会がある	肯定的評価 8.8%→8.8%
iPadなどICTをどれくらい使用したか	数値10以上9.8%→9.8%
授業においてiPadを活用して学習することになった	肯定的評価 9.8%→9.8%

の提示と「まとめ」「振り返り」のある授業が展開され、その成果として、概ね9割の生徒が各教科の「授業がよく分かる」と感じている。また、ICT 端末を利用する場面、話し合う場面、発表する場面が多く取り入れられている。その一方で、「道徳を好きだ」と感じている生徒が7割程度にとどまっている。

以上のことから、今年度、本研究主題を設定した。

2 実践計画

5月	校内研修1 道徳の授業について語り合う会
6月	校内研修2【要請期間1】(道徳の授業の作り方)
7月	校内研修3【要請期間2】公開授業1
8月	校内研修4 授業づくりを語り合う会 A講演会 中倉 茂樹 様
9月	↓ 授業実践(授業後の協議・研究だよりの発行)
10月	
11月	校内研修5【要請期間3】公開授業2
12月	↓ 授業実践() B講演会 伊勢 みずほ 様
1月	
2月	校内研修6 研究の振り返りとまとめ

3 実践の内容と校内研修等

(1) 校内研修1 道徳の授業について語り合う会

教職員が道徳の授業づくりで普段感じていることを、「授業者として道徳は好き？嫌い？」「得意？不得意？」の2つのテーマで意見交換をした。「授業者として道徳は嫌い・不得意」と感じている教職員が多く、その理由として次のような意見が出た。



嫌い・不得意

- ・生徒の意見が分からない時や、色々な意見が出過ぎて、授業の途中で自分がどんなゴールを目指しているか方向性を見失う時がある。正解がなく、色々な意見があるから本当に難しい。
- ・それぞれの課題で、ゴールがなく、多様な捉え方があると思う。考え方や捉え方の多様性を知り、世界を広くしていく必要だと思うが・・・生徒の考えを深めさせるのは、難しい。
- ・教材の文章が長い時、生徒が文章の内容を理解していないのが分かっているのに授業を進めている。文章の内容を理解させることができない。
- ・自然環境と伝統文化がとっつきにくい。あまり興味を持っていない。
- ・授業のゆらぎと生徒の素直な考えを結びつけることについて悩まながら構想を考えています。
- ・授業の最終的なところで、正解・不正解ではなく、様々な価値観があるので、最終的な正解(ゴール)がないような気がして、授業者としてスッキリしない。

好き・不得意

- ・色々な考えとその理由を聞くと、そんな考えもあるんだと気付くことがあるのが面白い。
- ・生徒のいろいろな考えを聞くこと安心し、心地よい。(たとえ綺麗事であっても)

次に、「理想とする道徳の授業」では、以下のように、生徒同士が関わり合い、互いの価値を交換し合うことでより深い道徳的な価値に生徒が気付けるような授業を理想としているという意見が多く見られた。

- 生徒が葛藤する場面が多い道徳の授業がしたい。
- これまでの経験の中では気付かなかった考え方を目の当たりにして、「なぜ？」と議論して、「なるほど」と感じ、「それじゃ、私はこうすることにしよう」と新しい自分に気付く授業、考え議論する授業
- 授業によって自分の考えが変わる生徒がいる授業
- 時間の中で生徒が資料の中の人を自分事として考えることができる。様々な考え方が出て、そんな考えがあるんだなあとの考えも他人の考えも大切にして、学び合える授業
- 課題に対して生徒一人一人が素直な気持ちで自分の考えと向き合い、安心して自分のその考えを仲間と共有し合える授業。その中から生徒達から良い答えを導き出して行ける授業
- 様々な考え方や価値観に触れることで、生徒一人ひとりが視野を広げ、思考を深めることができるような授業をしたいです。

職員研修1から、授業のねらいを明確にし、生徒から出る多様な考えをねらいの達成に向けて収束させていくことができれば、理想とする「生徒同士が関わり合いの中から、より深い道徳的な価値に気付ける授業」に近づくことができるのではないかとこのことを教職員間で確認した。

(2) 校内研修2 要請訪問1 (道徳の授業の作り方)

新潟市教育委員会 学校支援課から総括指導主事本間様を講師として招聘し、「道徳の授業づくり研修」を行った。職員研修1での道徳の授業についての教職員アンケート結果を基に、「(1)道徳科として求められる授業とは」、「(2)道徳科の評価とは」の2点について、下記のような御指導をいただいた。

(1)道徳科として求められる授業とは

○評価のポイントである「道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めているか」「一面的な見方から、多面的・多角的な見方に発展しているか」の2つの場面を授業の中で意図的に設定していく。

- 「道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深める」とは、観念的に知っているから実感を持った理解(自分事)へと変化すること。そのためには、問題意識をもって話し合う場面が必要である。
- 「一面的な見方から、多面的・多角的な見方に発展する」ためには、問題解決的な学習場面が必要である。

○毎週1回の道徳の授業をどのように臨むか

- ①指導観をもって臨む
 - 子どもたちの実態を捉えた上で、扱う資料で何を考えさせ、どのような姿を目指したいのかを具象的に構想する。
- ②山場をつくる
 - 子どもの価値観を刺激するような、葛藤場面や問題解決場面等をつくる。
- ③書く時間をしっかり設ける
 - 未来志向の振り返りをして、道徳的な心情、実践意欲、態度を育成。

(2)道徳科の評価とは

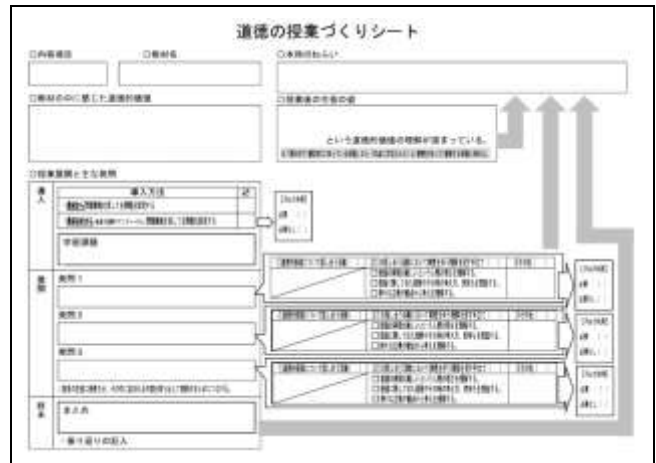
○道徳性は、内面的資質であり、道徳性が養われたか否かは、容易に半断できるものではない。しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や道徳性に係る成長の様子を適切に把握し、評価することが求められている。

【評価のポイント】

- ①道徳的価値の理解を自分の関わりの中で深めているか。
- ②一面的な見方から、多面的・多角的な見方に発展しているか。

○あくまでも道徳科における学習状況の様子で評価する。「ねらい」をゴールとして生徒の評価を行うのではなく、学習状況の成長を積極的に受け止めて、認め、励ます評価をする。

職員研修2の御指導に基づいて教職員で検討し、道徳の授業のポイントを意識しながら授業づくりを行えるよう、「道徳の授業づくりシート」を作成し、その後の授業づくりに活用することとした。

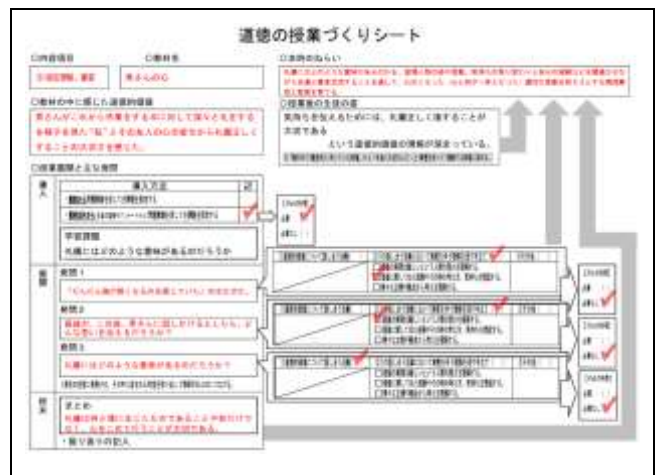


【資料1 道徳の授業づくりシート】

(3) 校内研修3 要請訪問2 (公開授業)

校内研修2に引き続き、本間総括指導主事を招聘し、「道徳の授業づくり研修 その2 (授業公開)」を行った。2年生の授業(教材名「秀さんの心」B(9))を公開後、協議会を行い、授業でよかったところ、改善点など話し合った。

事前に校内で作成した授業づくりシートを活用したことで、授業者が、指導感や山場などを明確にしたうえで授業実践することができた。参観者にとっても、授業づくりの意図が理解しやすいものとなった。



【道徳の授業づくりシート (秀さんの心)】



【ICT 機器を活用した課題提示の工夫】

授業内では、心のもった(心と形が一体となった)適切な言動を取ろうとする実践意欲と態度を育てるといふ指導感に基づき、山場となる場面ではロールプレイを用いることで、実感を伴った理解につながるよう工夫がされていた。



【心と形が一体となった礼儀をロールプレイ】

授業後の協議会では、「導入時の写真や挿絵など、授業準備が工夫されていてよかった。」「導入で、普段の自分の礼儀について考えさせたことで学習課題が自分事になってよかった。」「ロールプレイが非常に効果的だった。」などの意見が教職員から出た。また、指導主事からは「礼儀に対して普段意識していることを導入で聞き、問い返しをしていたのがよかった。」「問い返しを繰り返して生徒を追い込むことで、生徒の考えを深めることができる。」「ロールプレイが有効だった。周囲の生徒がどう感じたかも聞いてみたかった。」という授業の印象とアドバイスをいただいた。



【本間総括指導主事からの御指導】

校内研修3では、「道徳の授業づくりシート」の効果を確認することができた。また、「授業のまとめに向かうために最初と同じ質問を最後にするのはよい。考えの変容に気付くことができる。」「指導観が大切。教材名が授業づくりの大切なヒントになる。」というような新たなヒントを得ることもできた。

(4) 校内研修4 授業づくりを語り合う会

夏季休業中に行われた校内研修4では、研究主任による模擬授業の後に、道徳の授業づくりについて「不安を感じる」ところ「疑問を感じる」ところを中心に小グループでの話し合いを行った。



【模擬授業をもとに語り合う様子】

話し合いの中で出てきた意見をまとめると、「指導感が明確化できない」「ねらいの達成に向けての発問の組み立てに不安を感じる」という共通点が浮かび上がった。そこで、新潟市教育委員会のリーフレット「道徳科の授業づくり さらなる質の向上を目指して！」を参考とし、以下のことを教職員の間で共通理解を図った。

道徳的価値の大切さや意義について「頭の中で(観念的に)知っている段階」から本当に大切なことなんだ!と(実感を伴って)理解する段階に深めること。

そのためには次の活動が大切であることを確認した。

① 道徳的価値(の大切さ、本質、意義等)について話し合う活動を設定

教材の問題場面を基に、次のような働き掛けを行い、話し合う活動を設定する

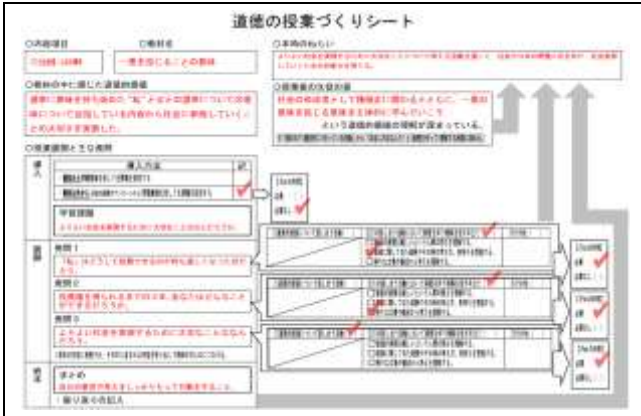
- 〔価値の大切さを問う働き掛けの例〕
「どうして相手を許すことが大切なのかな?」「なぜ自然を守ることが大切なのかな?」
- 〔価値の本質を問う働き掛けの例〕
「本当の友情とはどういうことかな?」「それって本当の思いやりって言えるのかな?」
- 〔価値の意義を問う働き掛けの例〕
「なぜきまりがあるのかな?」「なぜ統を大切にしなければならないのかな?」

② ①の話し合う活動において、実感を伴う理解を促す手立てを講じる

- 子どもに次のような「見方・考え方」を促す働き掛けを行う。
- 価値の実現は難しいという人間の弱さを理解したうえで考える。
 - 価値に関して似たような経験やその時の考え方、気持ちを想起して考える。
 - 価値にかかわる他者から出てくる様々な立場や観点からの考えを理解しようとするとともに、納得できる考えを見いだす。

4 授業や講演会の様子

(1) 3年生 (教材名：一票を投じることの意味)



【道徳の授業づくりシート（一票を投じることの意味）】

本授業では、道徳の授業づくりシートを基に、授業者が「よりよい社会を実現するためには自分の意見や考えをしっかりとって行動をすることが大切」という指導感をもち、授業に臨んだ。そして、その指導感を核に、3つの発問を考え、発問をより効果的なものできるように、生徒一人一人の考えをネームプレートや学習端末を使って視覚化する工夫が取り入れられた。

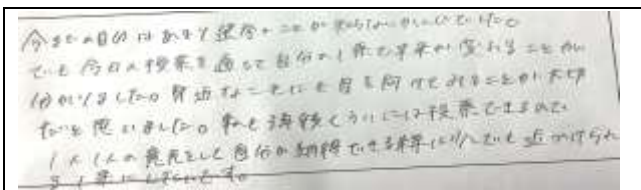


【学習端末で意見交換】



【ネームプレートで意思表示】

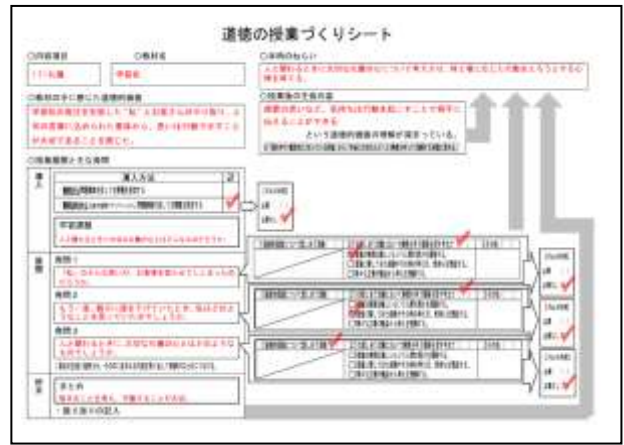
これらの工夫により、授業者の指導感に基づいた授業が展開されたことが生徒の感想からも読み取れた。



【生徒の感想より】

(2) 1年生 (教材名：学習机)

本授業では、授業者は「気持ちを伝えるためには、まずは行動を起こすことが大切。」という指導感に基づき、授業を展開した。こちらの授業でも、授業づくりシートを利用することで、授業者が明確な指導感をもって臨むことができ、生徒の話し合いについても話し合いの内容が焦点化され、活発な意見交換が行われた。



【道徳の授業づくりシート（学習机）】



【意見交換をする生徒の様子】

(3) 講演会の様子

夏の職員研修会に、徳島県から中倉茂樹様を招聘し、『ぬくもりを感じて』というテーマのもと、同和問題



や差別問題等について、自身の経験を踏まえて御講演いただいた。「同和問題学習はすべての人間が幸せになるための勉強である」ということを、実感を伴って理解することができた。事後アンケート項目、「理解を深めることができましたか？」で、

「大いにできた」80% 「できた」20%

次の感想も寄せられた。「被差別部落への差別の根深さ、迫力がありました。」「今回は多面的に思いに触れることができ、あたたかな気持ちになりました。」

4 成果と課題

本研究を通して、道徳の授業では指導者が明確な指導感を持つことが重要であることを全教職員で共通理解することができた。その結果、学校全体の道徳の授業は変わりつつある。今後の課題は、生徒がより自分事として授業の課題を真剣に考えることができるように ICT 機器を活用し導入や発問を工夫していきたい。

道徳の授業づくりシート

○内容項目

○教材名

○教材の中に感じた道徳的価値

○本時のねらい

○授業後の生徒の姿

という道徳的価値の理解が深まっている。
※「深」の中で、概念的に知っている段階から「本当に大切なんだ」と、感動を伴って理解する段階に深める。

○授業展開と主な発問

導入	導入方法		[iPadの活用] 必要 () 必要なし ()						
		<input checked="" type="checkbox"/>							
	<ul style="list-style-type: none"> 教材から道徳的価値を捉えてを課題を設定する 教材以外の(各自の経験やフューチャー)問題意識を捉えてを課題を設定する 								
	学習課題								
展開	発問 1	<table border="1"> <tr> <td>①道徳的価値について話し合う活動 ()</td> <td>②①の話し合う活動において、意見を伴う理解を促す手立て ()</td> <td>③その他 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td> <input type="checkbox"/> 価値の実現が難しいという人間の弱さを理解する。 <input type="checkbox"/> 価値に異なった経験やその弱の考え方、気持ちを抱かせる。 <input type="checkbox"/> 様々な立場や観点から考えを理解する。 </td> <td></td> </tr> </table>	①道徳的価値について話し合う活動 ()	②①の話し合う活動において、意見を伴う理解を促す手立て ()	③その他 ()		<input type="checkbox"/> 価値の実現が難しいという人間の弱さを理解する。 <input type="checkbox"/> 価値に異なった経験やその弱の考え方、気持ちを抱かせる。 <input type="checkbox"/> 様々な立場や観点から考えを理解する。		[iPadの活用] 必要 () 必要なし ()
	①道徳的価値について話し合う活動 ()	②①の話し合う活動において、意見を伴う理解を促す手立て ()	③その他 ()						
		<input type="checkbox"/> 価値の実現が難しいという人間の弱さを理解する。 <input type="checkbox"/> 価値に異なった経験やその弱の考え方、気持ちを抱かせる。 <input type="checkbox"/> 様々な立場や観点から考えを理解する。							
発問 2	<table border="1"> <tr> <td>①道徳的価値について話し合う活動 ()</td> <td>②①の話し合う活動において、意見を伴う理解を促す手立て ()</td> <td>③その他 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td> <input type="checkbox"/> 価値の実現は難しいという人間の弱さを理解する。 <input type="checkbox"/> 価値に異なった経験やその弱の考え方、気持ちを抱かせる。 <input type="checkbox"/> 様々な立場や観点から考えを理解する。 </td> <td></td> </tr> </table>	①道徳的価値について話し合う活動 ()	②①の話し合う活動において、意見を伴う理解を促す手立て ()	③その他 ()		<input type="checkbox"/> 価値の実現は難しいという人間の弱さを理解する。 <input type="checkbox"/> 価値に異なった経験やその弱の考え方、気持ちを抱かせる。 <input type="checkbox"/> 様々な立場や観点から考えを理解する。		[iPadの活用] 必要 () 必要なし ()	
①道徳的価値について話し合う活動 ()	②①の話し合う活動において、意見を伴う理解を促す手立て ()	③その他 ()							
	<input type="checkbox"/> 価値の実現は難しいという人間の弱さを理解する。 <input type="checkbox"/> 価値に異なった経験やその弱の考え方、気持ちを抱かせる。 <input type="checkbox"/> 様々な立場や観点から考えを理解する。								
発問 3	<table border="1"> <tr> <td>①道徳的価値について話し合う活動 ()</td> <td>②①の話し合う活動において、意見を伴う理解を促す手立て ()</td> <td>③その他 ()</td> </tr> <tr> <td></td> <td> <input type="checkbox"/> 価値の実現は難しいという人間の弱さを理解する。 <input type="checkbox"/> 価値に異なった経験やその弱の考え方、気持ちを抱かせる。 <input type="checkbox"/> 様々な立場や観点から考えを理解する。 </td> <td></td> </tr> </table>	①道徳的価値について話し合う活動 ()	②①の話し合う活動において、意見を伴う理解を促す手立て ()	③その他 ()		<input type="checkbox"/> 価値の実現は難しいという人間の弱さを理解する。 <input type="checkbox"/> 価値に異なった経験やその弱の考え方、気持ちを抱かせる。 <input type="checkbox"/> 様々な立場や観点から考えを理解する。		[iPadの活用] 必要 () 必要なし ()	
①道徳的価値について話し合う活動 ()	②①の話し合う活動において、意見を伴う理解を促す手立て ()	③その他 ()							
	<input type="checkbox"/> 価値の実現は難しいという人間の弱さを理解する。 <input type="checkbox"/> 価値に異なった経験やその弱の考え方、気持ちを抱かせる。 <input type="checkbox"/> 様々な立場や観点から考えを理解する。								

終末

まとめ
 ・振り返りの記入

岡方中 研究だより

令和5年9月22日発行

研究推進部

第7号

9月20日(水) 柳先生の授業より

内容項目	C 主として集団や社会とのかかわりに関すること (12)社会参画、公共の精神
教材	「紙芝居」 ある中学生が地域のボランティア活動に参加する姿を描く。「私」が所属する文芸部は、先生の提案で地域の紙芝居ボランティアに参加することになる。「私」はあまり乗り気ではなかったが、部員に押されて参加してみると、やりがいを感じるものであった。「私」の気持ちを共感的に捉えさせ、社会に自分から関わるこの意味やそのよさに気付かせたい。
ねらい	主人公の「私」の気持ちを考えさせる活動を通して、社会の一員として他者のために自分のできることを進んで行おうという態度を育てる。

○授業の流れ

導入

- ・ボランティアに参加する人たちの活動の様子を示し課題につなげる。

【課題】中学生の私たちには社会、地域の一員としてどんなことが大切だろうか。

展開

発問1：紙芝居を上映することが決まった時の私の気持ちは？

- ・グループで意見交換

発問2：私が今までと違って、道も街路樹もきらきらと輝いて見えたのは、どうしてでしょうか。

- ・グループで意見交換（共有ノートを利用）

発問3：中学生の私たちには、社会・地域の一員としてどんなことが大切だと思いますか？

- ・グループで意見交換。

終末

【まとめ】まずやってみることが大切。

それぞれが発表した後に拍手をもらい、生徒たちはとてもうれしそうでした。



ボランティアとして活動する人たちの様子を提示し、課題への興味関心を高めた。



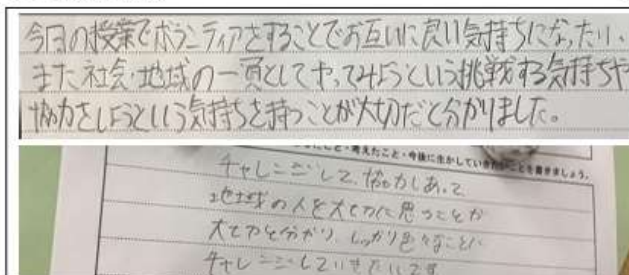
教材を前半部(私が紙芝居に乗り気ではない場面)と後半部(上映後に達成感を感じている場面)に分けて提示し、主人公の心情に寄り添いやすくなった。



小集団での発表をすることで、生徒が自分の考えを他者に伝える機会、気軽に意見交換をする機会を確保。



○生徒の感想



○板書の様子

